

J.S.バッハへの憧れ II

モダンフルートとプレイエルピアノによる

*J.S. Bach*

# Flötensonaten

フルート・ソナタ

2019.

11/17 (日)

14:00 開演

13:30 開場

アトリエミストラル



Hironori Shirouzu, Flute



Yuko Yoshioka, Piano

J.S.バッハ

- |          |      |          |
|----------|------|----------|
| フルート・ソナタ | ロ短調  | BWV 1030 |
| フルート・ソナタ | 変ホ長調 | BWV 1031 |
| フルート・ソナタ | イ長調  | BWV 1032 |
| フルート・ソナタ | ハ長調  | BWV 1033 |
| フルート・ソナタ | ホ短調  | BWV 1034 |
| フルート・ソナタ | ホ長調  | BWV 1035 |

■入場料

一般 3,000 円 65 歳以上 2,000 円 学生 1,000 円

ご予約は (株)空間あい またはアトリエミストラルまで。

■主催：株式会社 空間あい

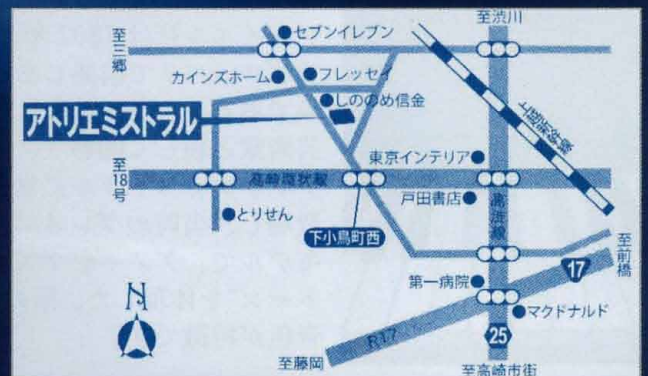
090-1815-4608 kiyoshi.a.space@gmail.com

■共催・場所：アトリエミストラル

090-8047-3757 mistralmusica@icloud.com

高崎市下小鳥町 312-4 (駐車場有)

■後援：(公財) 群馬交響楽団、おた芸術学校  
上毛新聞社



<交通のご案内> ○群馬バス：JR 高崎駅西口バスステーション②番より「浜川経由箕郷行き」または「伊香保温泉行き」に乗り、「上郊口 (かみさとぐち)」下車、バスの進行方向に向かって徒歩 1 分の右側 ○タクシー：JR 高崎駅から約 20 分、JR 北高崎駅から約 10 分、JR 間屋町駅から約 5 分



## コンサート開催にあたって

J.S.バッハ、この偉大な音楽家は、バロック時代の代表的な作曲家であり、ここで取り上げる6つのフルートソナタは、チェンバロ又は通奏低音と共演する為に書かれていて、現代でも指定通りの楽器編成で演奏するのが一般的で、王道であると言っても過言ではありません。

今回はその常識に捕らわれず、ショパンが愛したフランスの銘器プレイエルの1905年製 Model 3 bis ピアノと、フレンチスタイルのモダンフルートによる、新しい挑戦です。

アトリエミストラルは群馬県高崎市にある、旧金融機関（かんら信用金庫）を改装した最大席数約80のコンサートサロンで、その堅牢な造りからくる長く心地よい残響が特徴です。この不思議な空間と、美しいピアノの音色に醸し出される雰囲気は、バッハの新しい魅力を自然体で感じさせてくれると信じます。

白水裕憲（フルート）

## 白水裕憲 Hironori Shirouzu

群馬交響楽団フルート奏者

おおた芸術学校講師

福岡県立修猷館高校卒業。1988年、京都市立芸術大学を京都音楽協会賞を得て卒業。1990年、同大学院修士課程修了。

フルートを永田明、白石孝子、伊藤公一の各氏に師事。1991年、広島交響楽団入団。1993年、群馬交響楽団入団。その後（財）アフィニス文化財団の研修生に選ばれ、フランクフルト音大に1年間留学。V.ブルンナー教授に師事。群響の他、群馬県を中心に全国各地でソロ、室内楽、後進の指導等多方面に活動の場を得て積極的に取り組んでいる。また、広響、群響、おおたアカデミーオーケストラ、他等とも協奏曲を多数共演。高崎、東京でのリサイタルも毎年開催している。

## 吉岡裕子 Yuko Yoshioka

武蔵野音楽大学を経て、同大学院修了。ピアノを福元サザレ、永島恭子、G.ベルゲ、山田彰一、E.トゥーシャの各氏に、ピアノデュオ演奏法をH.P=ロジェ氏に師事。その後、ヴェルビエ音楽祭（スイス）、ショパン音楽セミナー（ポーランド）にて研鑽を重ねる。1992年、第1回全日本フランス音楽コンクール第2位。1995年のバリオホールにおけるデビューリサイタルを皮切りに各地でソロ演奏を続ける。2014年、第2回エイヴェレ国際ピアノ・フェスティヴァル（エストニア）に招かれ、リサイタル開催ほか、マスタークラス講師を務めた。CDアルバム「シサスク：銀河巡礼～北半球の星空」（2011）、「同～南半球の星空」（2018）をリリース。今年9月より天王洲アイルKIWAにて「シサスク～銀河巡礼全曲チクルス」を開始。このほか八ヶ岳高原音楽堂におけるトーク&コンサート、アトリエミストラルでのシリーズ「モーツァルト&ショパン」などを継続している。埼玉県立大宮光陵高等学校音楽科ピアノ講師。

## 1905年製プレイエル Model 3bis (85鍵)



幾多の作曲家やピアニストを魅了したプレイエル。中でもショパンはプレイエル・ピアノを「完全無欠」といい、生涯プレイエルを愛用しました。

プレイエル社は1807年、ハイドンの友人で作曲家のイグナツ・プレイエルによってフランス、パリで創業しました。「ピアノとは演奏者の声としての楽器であり、そして芸術品であるべき」と主張したイグナツ。2代目を継承した息子のカミーユは、幾多の著名芸術家と親しく関わり、彼らの意見を元にさまざまなピアノの改良を行いました。

アトリエミストラルに常設されたプレイエル 3bis は、164cmのモデルとして1905年に登場し、当時のプレイエルのグランドピアノの中でも、最も人気があった傑作の名高いモデルで、グノーやマスネ、フォーレら著名な音楽家にも愛用されました。“シンキングトーン”を体現した、極めてまろやかに長く鳴りつづけ、明快で艶と甘美さを兼ね備えた音色が特徴です。